

【連載にあたって】

「鳥取のわらべ歌」の後編として、「鳥取の民話」を紹介いたします。以前、現地で語り手の方々から収録させていただきました。当欄では解説を主体とし、具体的な話はわらべ歌同様、鳥取県立博物館のホームページで語り手の音声をお聴きください。東部、中部、西部の順に原則掲載。収録時に語り手本人から発表の許可も得ており、学術上の必要もあるため、お名前を明記しました。ご了承ください。

鳥取の民話

1

収録・解説 酒井董美

語り手 大原寿美子さんに笠かぶしてあげにゃん（明治40年生まれ） あ」と、頭の雪をきれい

昭和60年8月15日収録

に取って、竹の鉢の笠を

あらすじ

6体地蔵さんにみなかぶして、「さうさう」おぼあ、

昔。おじいさんとおば

もどった」。

あさんと貧しく暮らして

いた。竹の鉢を編んで、

かい」

おじいさんが「あれこれ

「何にも買わなんだけ

買っている」と出よられ

ど、お地蔵さんが頭の上

たら、道ばたに6体地蔵

に雪がいっぱい降って、

さんがおられて、ずっと

気の毒でこたえんもんだ

雪が降っていたので、「こ

けえ、お地蔵さんに、笠

りゃあ気の毒な、地蔵さ

かぶしていてもどった」

笠地蔵

(八頭郡智頭町波多)



イラスト・福本隆男

鳥取東部の山村にも息づく

「そりゃあよかった。いつ音が聞こえる。

さんが米を運んで来られてなあ、喜んで、喜んで。おじいさんとおばあさ

何にもものつてもおじいさ

「何じゃろうなあ、ある。

いっばい米を運んで、んとは、ちよっとの間に

んいいが。笠かぶしてあ

の音は「

大きな長者になって、え

げたらお地蔵さんが喜ば

「さーあ、何じゃろう。玄関に置いてこしとられ

だれが来たじゃろうなて、そいから起きて見りえ年を取ったとや。それ

れるわ」言つて。

あ「

「さあ、おじいさん、たばっちり。

夜、寝とったげな。

そつしたら、夜中に、

「ええつさらえつさら

解説

「ああ、えつさらえつ

えつさらえつさら

いしたことじゃ。お地蔵

えつさらえつさら

えつさらえつさら

さんがお米をいっばいこ

言つて、また、来られる。

と持ってきてこされた。見れば、6人のお地蔵

このときの聞き手は福井県の高校教師だった佐

飛鴻一さん、東京都の小

学校教師の白尾幸子さ

ん、その友人の主婦田中

和子さん、そして筆者の

4人だった。「本物の昔

話の語りを知りたい」と

いう白尾さんたちの要望

を受けて、語り手の大原

さん宅へ案内した。懐か

しい思い出である。

この「笠地蔵」の話は

よく知られているので、

どなたも一度はお聞きに

なったことがあると思わ

れる。鳥取県東部の山村

にもこつして静かに息づ

いていたのである。

(元鳥取短期大学教授)

(水曜日に掲載)